

Title	「續福澤全集」所収福澤書翰二通の發信年について
Sub Title	
Author	會田, 倉吉(Aida, Kurakichi)
Publisher	三田史学会
Publication year	1955
Jtitle	史学 Vol.28, No.1 (1955. 4) ,p.58- 58
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白録
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19550400-0058

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

- (六一) 岩村氏「マルコ・ポーロの研究」上巻頁七九。この事實は、當時のインド洋方面の貿易の中心となつていたのが、アラブ、ペルシヤ系のイスラム教徒であつた事實に合わせて考うべきであらう。
- (六二) 王國維全集本、古行記四種
- (六三) Ghulam Akbar: The New Royal English-Persian Dictionary, Allahabad 1925.
- (六四) Mediaeval Researches. vol. I, p. 125, vol. II, p. 140, note 381.
- (六五) Arthur Glyn Leonard: The Camel, its uses and management. pp. 95—97.

「續福澤全集」所收福澤書翰二通の發信年について

「續福澤全集」第六卷に收められている左の二通の書翰につき、その發信年が、一通に「年未詳」とあるのは「明治十七年」、他の一通に「明治十六年」とあるのも、これまた「明治十七年」の誤りではないかと思われる。理由はこうだ。

二四五 小幡篤次郎宛 年未詳四月十二日付

六五四 前田助作 清水廣博宛 明治十六年四月十五日付

兩書翰とも、舊高田藩出身の安藤達二なる者にかかわり、前者はその就職斡旋の手紙、後者はこの安藤が鹿兒島の或る豪商のもとに就職していくに際し、斡旋者たる福澤諭吉から安藤の伯父前田、清水の兩人に事情を説明して諒解を求めたものである。ところで、前者の文中に、この安藤は「先年より本塾に居て卒業昨今は和田の方にて教員たり云々」ということがみられる。「和田の方」とは、和田義郎の塾——つまり今の慶應義塾幼稚舎をさすので、これにより同書翰の發信年が安藤の幼稚舎教員

たりし時代であることを推定出來よう。しかも、「慶應義塾出身名流列傳」をみると、かれは明治十六年七月に卒業して翌十七年まで義塾幼稚舎教員をつとめたように記されている。安藤が明治十六年七月の本科卒業であることは義塾保存の「卒業生名簿」でもまた確認される。そして、もし右の記事を信用するとすれば、この書翰の四月十二日附現在で安藤が幼稚舎教員をしていたのは明治十七年に限られるから、その發信年を「明治十七年」とするのはまず差支えないところであらう。

次に、後者は、安藤が幼稚舎教員をやめて鹿兒島へ赴任するときのものだが、これも前述の通り安藤の卒業の年から推して、その發信年はむしろ「明治十七年」でなければならぬ。書翰の本文にはもちろんただ「四月十五日」とあるだけであるから、編者の誤記か誤植かではなかつたかと思われる。

それに、改めて二つの書翰を仔細に検討してみれば、兩者はどうも互いに關連あるもののように、同じ年の數日を隔てた書翰といえるのではなからうか。(會田倉吉)